

「大阪城夢祭」2日目も笑いライブ満載の1日に！

10月15日（土）より、大阪城天守閣復興90周年記念イベント「大阪城夢祭」がスタートしました。2日目となった10月16日（日）は、漫才や大道芸のほか、ライブも盛りだくさんで、週末の大阪城公園は大賑わいとなりました。

●大阪城夢祭 楽市楽座 漫才 SPECIAL LIVE

「大阪城夢祭 楽市楽座 漫才 SPECIAL LIVE」では、麒麟・田村裕さん、近藤夏子さんがMCを務め、ふたりは華やかな着物姿で登場！楽市楽座内の着付けをブースで着付けをしてもらったそうで、「是非みなさんも体験してみてください！」と案内しました。



まずは3組の大道芸人が前半を盛り上げます。パフォーマーの高取優耶が幻想的な音楽に合わせ、約2mの脚立の上で椅子倒立を披露。息をのむ迫力の演技に大きな拍手が巻き起こります。続いては、2人組のバタハリが、カラーコーンをつかった大道芸をメインに、5kgの巨大カラーコーンをスティックで操りながら大縄跳びに挑戦。もりやすバンバンビガロは、お手玉やルービックキューブで盛り上げ、会場を一体にしました。



続いては、人気漫才師3組が続けて登場！カベポスターは、独自のゆる～いペースにお客さんを巻き込み、十二支を使ったしりとりなどオリジナルゲームで爆笑を起こしました。2組目は、モンスターエンジン。鉄板ネタの「中小企業！」の雄叫びが会場に響き渡り、マニアックな鉄工所の風景ネタで、尻上がりに盛り上げました。大トリはミルクボーイ、「2年前のM-1を見た人？」という呼びかけにはたくさん手が上がり、人気の高さが伺えます。「お

かんが forgot お菓子の名前」漫才で、息をきらしながら全力の漫才を披露しました。

●LIVE GUMBO PARK SPECIAL LIVE

城天と呼ばれる大阪城公園でのストリートライブから音楽シーンの先端へと羽ばたいたバンド、大阪府松原市発の4人組・flumpoolが登場しました。

いきなりインディーズ時代の曲「labo」で集まったファンを沸き立たせます。その後も懐かしく、かつ彼らの人気を確かなものにした楽曲を続け、特にデビュー曲「花になれ」では、エモーショナルなメロディと熱のこもった演奏で観客のハートをがっちりとつかみます。



写真：田浦ボン

山村さん (Vo) は「この城天という場所、(中略) 僕たちは15年ぐらい前に出てたんですけど、また帰って来れましたよ。うれしい!」と思いを語り、「今日は雨予報だったんでアゲた方がいいかなって、雨用のアッパー、アゲアゲセトリを用意してしまいました(笑)」と中盤戦へ。体を突き動かすビートに、ステージに向け伸びる手は下がることがありません。また「reboot～あきらめない詩～」の爽快感に、目と耳はますますに釘付けになります。

そんな前のめりのムードを、再び阪井さんが実家にまつわる衝撃&爆笑トークでクールダウンすると、山村が「いけますか? 大阪!」と煽り、アップテンポに「two of us」からスパートへ。最後の「君に届け」では手拍子を味方にし、その青く甘くせつない曲の世界を存分に体现してゴールに到達。夕焼け間近の大阪城の風景の音楽が溶け合うラストシーンをすべての人の脳裏に焼きつけ、全9曲のスペシャルステージは幕を下ろしました。



写真：田浦ボン